

資料提供年月日	平成28年5月25日	
問い合わせ先	課名	下水道河川計画課
	電話	直通 803-1434 内線 4980
担当者	職名・氏名	河川防災担当課長 山川 圭一

広 報 連 絡

<市長定例記者会見資料>

- 1 件 名 出水期を迎えるにあたっての取組みについて
- 2 内 容 ①当新田ポンプ場の試運転
②樋門等の操作訓練
③土砂災害危険箇所の点検
- 3 日 時 ①平成28年5月27日 (取材対応：5月27日 14:30)
②平成28年5月30日～6月3日 (取材対応：5月31日 15:00)
③平成28年6月24日～6月30日 (取材対応：6月24日 10:00)
- 4 場 所 ①岡山市南区当新田地内
②岡山市中区浜一丁目地内他
③岡山市東区瀬戸町肩脊地内他
- 5 参加者 ①地元関係者・下水道河川局職員
②下水道河川局職員
③岡山市・岡山県・岡山県防災ボランティア協会・警察
- 6 趣 旨 出水期を迎えるにあたって、下水道・河川施設の試運転や操作訓練、土砂災害危険箇所の点検を実施するもの。

当新田ポンプ場の試運転

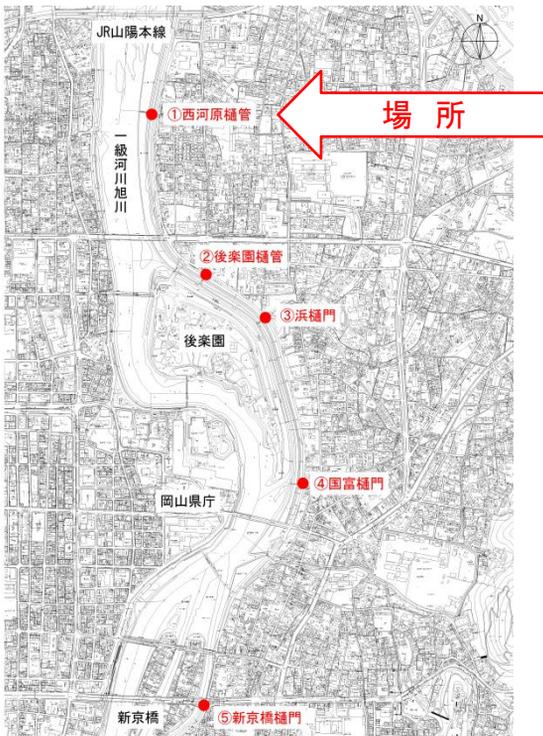
1. 目的 今年3月にポンプの増設が完成した当新田ポンプ場について、出水期を前にして、地元関係者に試運転を公開し、浸水対策への理解、協力を得る。
2. 場所 岡山市南区当新田267番地1 当新田ポンプ場内
3. 実施時期 5月27日(金)14:30
4. 実施内容 (1) 増設した雨水ポンプを運転し、排水を行う。
(2) 参加者
 - ・地元町内会長
 - ・地元農業水利土木員
 - ・当新田ポンプ場・管理ゲート地元操作員 等
5. ポンプ場能力 955m³/分 (25mプールを約30秒で空にできる能力)
6. ポンプ増設効果 芳明・芳田小学校区南部において、平成23年9月の台風12号と同様の雨でも床上浸水が防げるとともに、浸水面積も約半分になるなど、地区の浸水防除に大きな役割を果たすことが見込まれる。



増設したNo.4雨水ポンプ全景

樋門等の操作訓練

1. 目的 旭川ダム放流時において、樋門を操作し旭川から市街地への逆流防止を図るための実地訓練を行う。
2. 実施時期 5月30日(月)～6月3日(金)
3. 取材対応 日時 : 5月31日(火)15:00(少雨決行)
場所 : 岡山市中区浜一丁目(下記位置図参照)
4. 実施内容 (1) 樋門の操作訓練等
 - ①樋門の設置場所、待機場所の確認
 - ②樋門開閉機の操作実習
 - ③樋門内外の水位標設置場所の確認、読み方の指導
 (2) 参加者
下水道河川局職員



樋門位置図

平成27年度実施状況
(西河原樋管)

土砂災害危険箇所の点検

1. 目的 土砂災害の発生のおそれがある箇所について点検を行うとともに災害時要援護者施設管理者への啓発等の土砂災害対策の促進を図る。
2. 実施時期 6月24日(金)～30日(木) 東区瀬戸町肩脊地内他9個所で点検実施
3. 取材対応 日時 : 6月24日(金)10:00
(少雨決行。ただし、注意報以上で延期または中止。)
場所 : 岡山市東区瀬戸町肩脊地内(障害者就労移行支援施設裏)
4. 実施内容
 - (1)土砂災害危険箇所の点検チェック
 - ①斜面・山腹の変状②湧水の状況③土砂流出の状況 等
 - (2)土砂災害危険箇所にかかる災害時要援護者関連施設(管理者)への啓発活動
 - ①危険箇所点検時の立会依頼
 - ②土砂災害警戒区域図、土砂災害啓発チラシの配布 等
 - (3)参加者
 - ・岡山県(防災砂防課、備前県民局管理課)・岡山県砂防ボランティア協会
 - ・岡山東警察署・岡山市(下水道河川計画課)



突然襲う土砂災害

みんなで防ごう土砂災害
土砂災害防止月間
6/1→30

かけ崩れ防災週間 6/1▶7

主催：国土交通省・都道府県

自らの身を守るためには、
「日頃の備え」と「早めの避難」が大切です

国民の命と暮らしを脅かす土砂災害が、
毎年平均1000件以上発生しています



平成26年8月20日に広島市で発生した土砂災害では74名が犠牲となった。
ひとつの土砂災害としては昭和58年の島根災害以降最大の人的被害となった。



土石流災害



地すべり災害



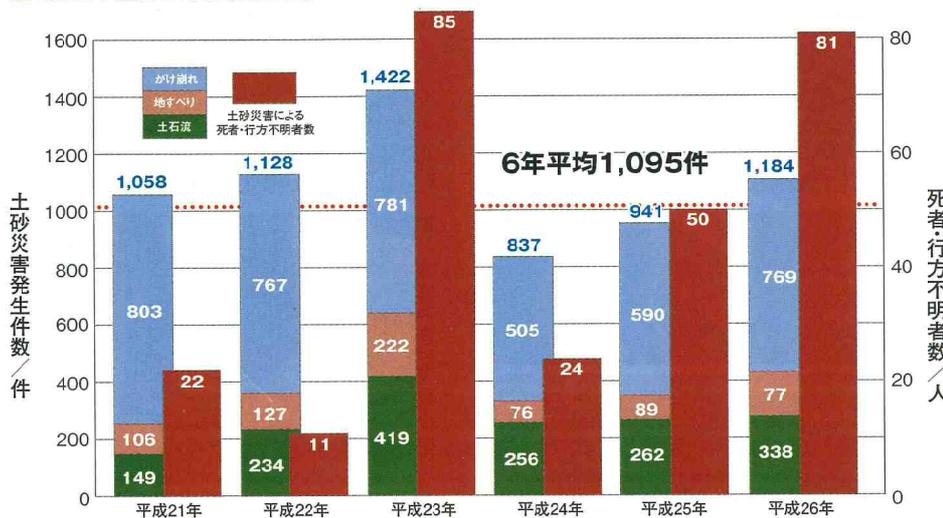
かけ崩れ災害

異常な豪雨があいつぎ 大規模な土砂災害が多発

近年は1時間に50ミリを超えるような局地的大雨が増加している
傾向にあり、各地で土砂災害による被害が多発しています。

特にここ数年は、昨年の広島土砂災害や、平成25年に伊豆大島を
襲った土石流災害のように、一度に多くの命を奪う激甚な土砂災害
が毎年発生しています。

■ 最近の土砂災害発生状況 国土交通省砂防部資料をもとに作成



■ 局地的な集中豪雨が増えている

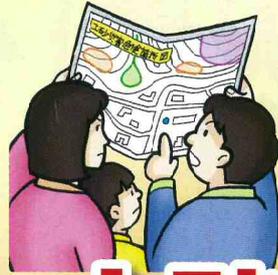
1時間降水量50ミリ以上の年間観測回数の推移 ※気象庁資料をもとに作成



日頃から住んでいる地域の危険度を把握する

がけや渓流の付近など、土砂災害によって生命や身体に危害を生じるおそれがあると認められる場所は、都道府県が土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域に指定しています。土砂災害のハザードマップなどを参照して、お住まいの場所が土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域に当たるかどうか、あらかじめ確認してください*。これらの区域にお住まいの方は土砂災害からの避難が必要です。

*ハザードマップについては自治体にお問い合わせ下さい。土砂災害警戒区域などに関する情報は各都道府県の砂防課や国土交通省砂防部のウェブサイトなどからも確認できます。



豪雨になる前に早めの避難行動を

大雨時には早めの避難

がけ下や渓流沿いなどに住んでいる方は、大雨の際や土砂災害警戒情報が発表された時には、早めに近くの避難所などの安全な場所に避難しましょう。



土砂災害から命を守るために

夜間に大雨が予想されるときは暗くなる前に避難

夜間に大雨が予想される際には、暗くなる前に避難をすることがより安全です。自治体の避難勧告などの情報に注意して早めの避難を心がけましょう。

お年子など災害時要援護者がいる場合は、移動時間を考えて早めの行動を心がけましょう。



雨が降り出したら情報に注意

大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときには「土砂災害警戒情報」が発表されます。雨が降り出したら、雨雲の動きや土砂災害警戒情報に注意しましょう。

土砂災害警戒情報はTV、ラジオ、インターネットの報道や、気象庁、国土交通省砂防部、各都道府県の砂防課などのウェブサイトを確認できます。



出典：国土交通省砂防部・気象庁ウェブサイトより

日頃の備え

早めの避難

どうしても避難が難しいときは

土砂災害の多くは木造一階で被災しています。豪雨などでどうしても避難所への避難が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の二階以上に緊急避難したり、それも難しい場合は家の中でより安全な場所（例えば、がけから離れた部屋や二階など）に避難しましょう。

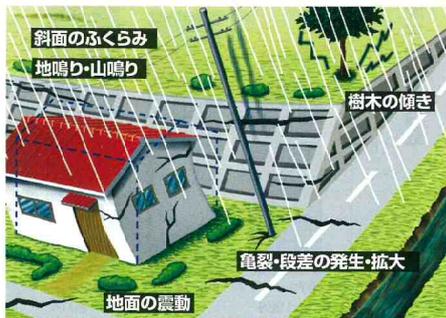


こうした現象は土砂災害の前兆現象です

こんな現象を見たら…聞いたら…早めに避難しましょう。
キケンな場所には近づかないようにしましょう。

※ここに紹介した現象が、土砂災害発生の前兆現象の全てではなく、また、これらの現象が見られなくても土砂災害が発生する場合があります。

地すべり



土石流



がけ崩れ

